



右/所員のみなさんと。中央に立つ團野の右隣が入江所長。
左/入念に足場を点検する團野。

私の仲間
komachi's point

輝け!

けんせつ小町

現場監督

團野真子

青木あすなる建設株式会社
大阪建築本店 田中病院作業所



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。

入社1年目、青木あすなる建設(株)初の女性現場監督が大阪府にいる。8人兄妹という大家族、そしてバレーボール部でのマネージャー経験を通してコミュニケーションとチームワークの大切さを学んだ若き小町は、現場のムードメーカーとして活躍している。

東日本大震災を契機にゼネコンへ

團野真子は一九九三(平成五)年、大阪府生まれ。八人兄妹の下から二番目、にぎやかな環境で育った。幼い頃から両親と住宅展示場を見てまわっていた團野は、物心がつく頃から建物が好きだった。そんな團野が初めて建築について学んでみたいと思ったのは兄の影響だった。

「私が高校二年生の頃、大学で建築学科を専攻していた兄が家で課題の住宅模型に取り組んでいたんです。興味本位で一緒にやり始めたら、時間を忘れて配置図を考え、模型をつくっていいました」

もともと建物が好きだった團野は、模型づくりを通して建物の構造に関心を持つようになっていった。大学で建築について学ぶと決めた高校二年生の終わり、東日本大震災が発生した。「建物が地震の被害を受け、街が津波に流されがれきの山となった姿をテレビで見た瞬間、衝撃が走りました。安心して使える建物をつくっていききたいという想いが生まれてきたんです。震災後にゼネコンが復旧・復興作業に取り組み姿を見て、自分の手で建物をつくりあげたいという気持ちが沸いてきました」

震災により一変した東北の街は團野に大きな衝撃を与えたが、これを機にゼネコンの現場で働きたいという大きな目標ができる。「大学三年生の時に、構造・生産、意匠設計、

建築環境で分野分けがありました。私は迷わず構造・生産を専攻し、耐震設計について研究しました」

大学時代、「地震」をキーワードに構造について勉強をしていた團野は就職活動を迎える。

「震災から四年経ってもゼネコンの現場で働きたいという気持ちは全く変わりませんでした。大学のプロジェクトを通してチームワークが大切だと学んだので、会社を選ぶ時は、働いている社員の方や会社の雰囲気重視しました」

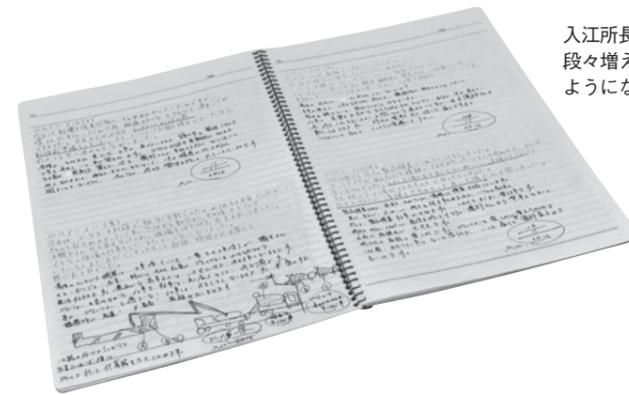
團野は、一緒に働く社員の方々と自分の相性を意識しながら就職活動を行った。いくつかの会社を受けるなかで、自分に一番合っていると感じた青木あすなる建設(株)に入社。二〇一六年四月より、憧れであった現場監督としてのキャリアがスタートした。

現場を盛り上げるムードメーカー

新入社員研修後、團野は大阪府茨木市で工事が進む病院の新築現場へ配属となる。朝礼での声出しからはじまり、新規入場者への現場説明、場内の点検、図面の確認などを行っている。

「実際に現場に配属され働きはじめると、初めてのことばかりで驚きました。この現場は病院なので手術室など特殊な設備が多く、分からないことが次から次に出てきました。職人さんが話す専門用語や略語にもなかなかついていけなくて。でも、皆さんが優しく教えてくださる

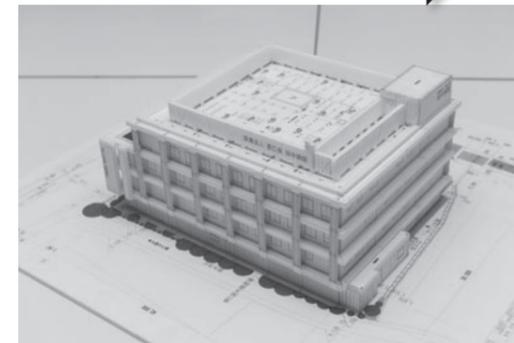




入江所長との交換日記。文章量が段々増えていき、1日1ページ書くようになってきた。

「笑顔と元気で現場の チームワークを高めていく」

私の
こだわり
komachi's
point



上／配属後最初の仕事は現場の模型制作。兄と一緒に取り組んだ課題を思い出しながらつくりあげた。
下／職人と一緒に測量をすることもある。

図面を広げると職人が集まってきて、進捗状況を報告する。雑談を交え團野のまわりは笑顔が絶えない。

ので、とにかく今は知識を吸収しています」
現場では毎日驚きと勉強の繰り返しですが、新しい発見があり楽しいと目を輝かせる團野。

「大学時代は男子バレーボール部でマネージャーを務めていました。自分からプレーヤーに話し掛け、一人ひとりの体調管理をするところは今の仕事と似ているかもしれません。職人さんに最初の一声を掛ける時はどきどきしましたが、今は『だんちゃん』という愛称で呼ばれ、仕事以外の話もするようになりました」

八人兄妹という環境や部活動のマネージャー経験を通してチームワークの重要性を学んだおかげで、年齢や性別を気にせず誰とでも良好な

関係を築くことができる。明るく笑顔が絶えない團野は現場の雰囲気盛り上げ、新しく入ってくる職人ともすぐに打ち解けるので職人同士をつなぐ架け橋にもなっている。いまや現場には欠かせない存在だ。

交換日記で一日を振り返る

團野が現場に配属されて以来、欠かさずやることが二つあると、この現場を統括する入江所長は話す。

「二つ目は、毎朝早く来て事務所周りの掃除をすることです。事務所の机をすべて拭いて、その後は階段まで丁寧に掃き掃除をします。私が入社員の時に掃除をしていた話をしたら、一度も休まず来ているのでとても感心します」
覚えることや仕事がいくつもあるなかで、時間をつくって掃除をする團野は笑顔で答えた。
「事務所がきれいなほうが皆さんの仕事はかじると思っています！」

團野の笑顔に目を細めつつ入江所長は続ける。「二つ目は、交換日記です。私と團野で毎日交換日記のやり取りをしているんです。入社一年目というのは色々悩みがありますから、毎日その日に思ったことを書いてもらって、それに対して私がコメントしています」

團野は入江所長との交換日記のやり取りについてこう話す。
「交換日記は現場で直接聞けなかったことを

komachi MEMO

「建築を学んでいた兄は、現在、設備施工の会社で働いているんです。勤務地が滋賀県なので普段はなかなか会えませんが、会うと今どんな仕事をしているか話をして盛り上がります」



profile

だんの・まこ◎1993(平成5)年、大阪府生まれ。建築学科を卒業後、2016年4月に青木あすなろ建設㈱入社。東京、大阪での新入社員研修を経て、現在は大阪府茨木市の病院新築工事の現場で活躍している。

現場の点検が終わると事務所に戻り、入江所長と施工図面の確認を行う。

聞いたり、一日を振り返るきっかけにもなるのでありがたいですね。入江所長からの的確なアドバイスは自分の糧になっています」
口頭では伝えきれないことを交換日記でのコミュニケーションで補い、「報・連・相」を通して二人は良い信頼関係を築いている。

人のあたたかみを感じて

團野は、青木あすなろ建設㈱初の女性現場監督なので、社内では注目されている。

「体力的に男性にかなわないところはありますが、周りが声を掛けて助けてくれます。日頃のコミュニケーションの大切さを改めて実感しました」

これまでの仕事ぶりを振り返りながら、入江所長は次のように語る。

「團野は非常に責任感が強いので、率先して仕事に取り組みます。ただ、はじめは体力面や精神面をうまく調整できずしんどい時があるので、様子を見ながら仕事を割り振っています」

言葉と文字を用いて対話をしているからこそ得手不得手が分かる。女性だからではなく個々の能力に応じてどうフォローし合うかが重要だ。「人のあたたかみを感じられるこの仕事が好きです」

これからいくつもの現場で様々な人と出会い経験を積んだ團野が、チームをまとめながら活躍する姿が目に見えそうだ。